総　務　文　教　委　員　会　記　録

令和2年6月26日（金）
14時26分～15時40分
全　員　協　議　会　室

【委　員】西村委員長、芦谷副委員長
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員
【委員外】柳楽議員
【議長団】
【事務局】下間書記

【議　題】
1. 取組課題「こどもの可能性を育む幼児教育について」

2. その他

【議事の経過】

〔　14 時　27 分　開議　〕

西村委員長　出席委員は8名全員そろっているので、ただいまから総務文教委員会を開催する。

6月8日に県から4人来られて、取組課題について県なりの立場をディスカッション交えてお話ししていただいた件について、まとめをしようという三浦委員からの提案があった。再度振り返りながらの方もおられただろうが、それも含めて感想や気づき、深堀りしたい点等についてそれぞれ出し合っていただきたい。

西田委員と三浦委員に進行役を務めていただき、取りまとめもお願いできたらと考えている。流れとしては全員が意見して、それをまとめるという作業をお願いしたい。時間的には決めておきたいのだが、3時半頃を目途に進めていただけたら喜ぶ。よろしくお願いする。

（　「はい」という声あり　）

1. 取組課題「こどもの可能性を育む幼児教育について」

西田委員　私が進行、三浦委員がまとめを担当させていただく。

6月8日の勉強会について、サポートシートにそれぞれ思いや気づきを書かれていると思う。それぞれ発表をお願いする。目的が1番目、2番目に気づき、3番目に取組とあったので、まず1番の目的からまとめていきたい。

下間次長　目的については、今回は講師による講義だったので、講師がねらいとしていた「幼児教育についての理解を深める」、「幼児教育の推進に向けて情報共有する」という点が目的と言える。流れとしては、「幼児教育推進のために」、「幼児期につけたい力」、「幼児教育の推進に向けて」の3つについて講義いただいた。

西田委員　目的はそれでよろしいか。

（　「はい」という声あり　）

では、シートの2番目の気づき、特筆すべき点や深堀りしたいこと、勉強会の中で気づいたことやひらめいたことを順番に発表していただきたい。

上野委員　効率よく脳を成長させるには幼児教育が大事。一生にこの時期しかない。その教育の環境づくりをしっかりやらねばならないと感じた。体験を通じて基礎を育てて、学びに向かう小学校以降に必要な力と先生が言われた。その時期に地域も保護者にもそういう意識があれば、できるだけ子どもと関わって、それが子どもの力になると思う。今まで保育所、保育所とばかり言っていっていたが、もっと地域との関わりが欲しいと思った。

西田委員　学校や保育所だけでなく、地域等それ以外のプラスアルファ、人との関わりが大事だということか。

上野委員　コミュニケーションを大事にすることが、以後に生かされる。

永見委員　県の幼児教育にとって大事にしたい重点項目の4項目を話してもらった。4項目について、深堀りしていけば良いと感じた。幼児教育に係る環境整

備、質の向上のための研修の充実、幼児教育の施設だけでなく小学校との接続への促進、家庭、地域の連携の充実等4項目を、今から深堀りしていったらどうかと感じた。

西田委員　先生の研修の中で出て重点的な4項目をもっと深堀りしていきたいということ。

牛尾委員　幼児期に子どもを育てる保育士なり幼稚園教育が、どのくらいの能力をもって幼児教育ができるかにかかっているのだろう。人材の能力を子どもたちに転化させるにはどうすべきかがポイントになるかと思う。それを深堀りしながら、今回のテーマについて求めていきたい。

西田委員　子どもの本来持っている可能性や能力をどうやって引き出すかということ。

牛尾委員　そうすると保育士なり幼稚園教諭の能力を含め、何かが欠けているような気もする。

西田委員　牛尾委員が言われたように、子どもの持っている能力をいかに引き出すか。その時期でないと引き出せないものが必ずある。それをいかに引き出すか、という点を私も感じた。今の幼児教育、学校教育は、大人の考えが基本にある。逆にいうと、子どもが安心安全に過ごせることが大人にとっての安心安全、ということを一番に考えている。私は逆に、いかにリスクを体験させるかが必要だと思った。園の中で遊ぶのは保護者や大人にとっては安心かもしれないが、社会に出たら荒波なので、それを園外でいかに体験するかが重要だと感じた。

西川委員　行政がどう取り組んでいるか。浜田市では幼児教育が幼稚園教育とイコールだと今のところ感じている。県に聞くと、保育園も入っているし、社会教育の中にも幼児教育が位置づけられているとのことだった。ゼロ歳児は家庭で育つことが多い。幼児教育を社会教育として位置づけ、家庭や地域も含めた育む仕組みを行政で作っていくべきではないかと感じた。

芦谷副委員長　保育協議会に加入していない園がある。それくらい、保育園で言えば市の行政の牽引というか、音頭取りが上手くいってないと思っている。加えて幼稚園との関係でもしっかりした突き合せがない。問題は、子育てに関係する人や機関を園で活用しながら、とにかく浜田市の子育ての方向性を共有する。今は保育園と幼稚園を教育委員会が併任しているので、やや前進する感じがあるが、それとて幼稚園教育要領と保育指針とはどうかという話が出るくらいである。

問題は、市として就学前の子どもたちをどう育てていくか、明確な方針を教育委員会も市長部局も作って、実行して、大事なのは、やってみた後の振り返りである。結果をチェックして進むべき。しかしそれを教育委員会は幼稚園に任せきり、市長部局は保育園になっている。

地域皆で育てるということになれば、公民館や地域資源も含め、皆で子育てに関われる環境を作り、地域に子どもがおり、大人がおり、地域資源があり、皆関わっている、そのようなことが提言としてまとめられればと思う。

西村委員長　私が個人的に1つ学びたいと思っていたのは、しつこいようだが、教育と保育はどこがどう違って、同じなのかという点で、結論は言ったとお

りで同じだというところが、大きな意味での結論である。ただ、三浦委員が紹介してくれた首藤さんの、小難しい冊子ではあったが一通り読んで感じたのは、当時のネーミング、1つの概念に対し、どういう日本語を当てはめたら良いのかも書いてあった。そういうことで、教育と保育の差が生まれた歴史的背景の違いについても言われていた。そういうところに私はかえってこだわりすぎていたと、その本を読んで思った。私が知りたかった最大のことに応えてくれたのでとてもよかった。

もう1つ、竹岡さんが言われて私も素晴らしいと思ったのが、資料7、8ページの絵である。要するに僕らは議会の人間なので、行政の立場でものを見る必要はあるのだが、そういう目で言うと特に10の姿を、どうやったら豊かに、あるいは大きく、深くできるのか。それを追及する義務があるのかなと思っている。それが教育環境ということなのだろう。それを深堀りできるようなテーマを個人的につかみたい。

もう1つは、8ページの10の姿を1つのストーリーで語っているところが素晴らしい。学びの過程がすごく分かりやすく描かれていて感動した。ものごとは分かってくると、人に分かりやすく伝えることができる、その典型だと感じた。僕らもこういう世界を目指したい。こういう世界で、この取組を、こんな感じでいけたらと思う。

西田委員　委員長がまとめられたとおり。7、8ページを見れば一目でわかりやすい。地上ではなく地下の部分がまさに幼児教育だという気がする。それをいかに深堀りするか、目に見えない部分を探っていくのが深堀り。具体的に、現実的にどう深堀りしたら良いかが課題。体験しないことにはこの部分が見えてこない。

三浦委員　改めて幼保の違いは関係なく、幼児教育の環境は、まち全体の中にあるのだと感じた。身に付けたい10の力が非常に分かりやすかった。これを推奨していくには具体的にどうしていくのか。浜田は具体的にどうしていくかがまだ見えていないので明確にしていきたい。

芦谷委員も言われた協議体の1本化。浜田で何かをする時に、人材をうまく活用すること、知識の共有、そうした枠組みは必要であると思う。

1番必要だと思ったのは、幼児教育の現場に出ているコーディネーターの方々で、市が単費を松江、出雲、雲南は独自でつけていて、それは必要性に応じてつけているとは思うが、その方たちがいる地域はどういう活動をされているのか。置いていない浜田において置いてほしいという要望を市役所も言っている、それは必要な人材なのだろうと確認した。それが気づきである。

西田委員　皆それぞれ考えておられる。またこれはこれでまとめさせてもらう。

三浦委員　皆のコメントをホワイトボードに残した。共通したところはあり、上野委員が言われた地域や幼稚園以外での人との関わりが大事なのではとかが共通している。

牛尾委員が言われた、いかに子どもの可能性を引き出すか、その引き出す人材である先生が必要で、人材育成が大事。芦谷委員の言われたこととにも共通する。

西田委員は年齢に応じた教育環境整備を言っておられた。地域にもつながると思うが、園外を意識した人間関係。これも地域や家庭との連携

が大事になってくるのかと思う。
　私も感じたが、西川委員がおっしゃった、幼稚園だけが幼児教育ではなく、保育園もあり、社会教育施設等他にもたくさんあって、それが全部幼児教育だと。
　市と現場がきちんと方向性を共有し、一緒に実行し、できているか確認する。このプロセスは現場だけでなく市も一緒にやっていくという芦谷委員の意見。
　委員長が言われた教育と保育の差異はないといことを前提として確認できた。10の姿は分かりやすく重要で、小学校からの先の学びにつながるベースの考え方になる。これをどう身に付けるかというスタンスに立てば、その追及がまさに教育環境を整えていくことになる。樹木の根の部分、地下の部分が大事で、そこを充実させることが大事。

西村委員長　10の姿は小学校で言えば通信簿のような評価につながっていくと私は捉えた。10の中で、この子はここが優れている。あるいは逆に少し弱いといった方向で突っ込んでいくとか。教諭とか保育士とか見える人には見えてくるのだろうと思う。

西田委員　10の姿は、国語、算数、理科とかの科目ではない部分の、人としての能力、才能ということか。

西村委員長　能力というか個性ということだ。

西田委員　いかにそれを引き出すか。抑えてはいけない。深堀りが必要なのはそこだろう。

三浦委員　そこがドキュメンテーションだと思う。あの子はこれができるようになった、あの子はあれが弱い、といった成長を先生だけでなく、地域の方や保護者でみんなで成長を記録して共有することを県も推奨している。こういうことを現場の先生だけが知っているのではなく、先生から親に伝わるとか、地域と共有していくとか、そういうドキュメンテーションが推奨されている。

西村委員長　自分は父親失格だとあの場のあいさつで言った。竹岡さんのような人が、一講座持ってもらって、僕が若い時に子どもを前にして、良い面を言ってもらったりすると、見えてない自分の子どもの能力と、足らない部分がリアルに見えて、非常に良かったのではと逆に思った。そういう機会は僕にはほとんどなかったように思う。あったのかもしれないが自分のことでいっぱいだった。本当は質問で、そういう意味で地域や家庭の保護者にどれだけ話を持たれているかと聞いたが、答えてもらえなかったのは不満が残る。そういう部分があのセンターでどの程度実際にされているのか非常に気になった。スタッフ数も限られているから、おそらく十分には行えていないとは思う。

西田委員　気づきを挙げてもらったので、次は支援策、こういう取組をということで皆のお考えを発表していただきたい。

上野委員　幼児教育施設と小中へつなぐために、現場の声をしっかり聞かねばならないと感じた。小学校との連携ができているか、できてないか、両方の声を聞くことが大事である。
例えば公民館でも、地域資源をうたった学びの場を地域の人に求める。一緒になって、地域資源をうまく使った教育、それをすることで子ども

が先々で地域に興味を持つことにもつながれば良いと感じた。

永見委員　幼稚園と小学校の関わりについて話をさせてもらった。今の4項目の中にも、②に研修のことがある。松江、出雲、雲南のアドバイザーの配置。子どもたちが小学校へスムーズに接続できるよう関わっているとお聞きした。浜田でもそれができるようにしたらどうか。支援できるものがあるならそこを支援したらどうか。そうすることで、子どもたちは保育所と小学校は環境が大分変わるので、問題とも関連しているのではないか。そのあたりの支援について、気にはなった。他の自治体でやっておられるので、浜田市も踏み込んだらいかがかと思った。

牛尾委員　ゼロ歳児保育が増えたと。保育園もいっぱいである。逆に親も預けるので手いっぱい。園も預かって子守りするのが手いっぱいの中で、どういう教育を子どもにしていくかを考える時間はないのかもしれない。どういうことを幼児教育にしてほしいかが、共通認識として伝わっていないのではないか。価値観の共有できてない、すり合わせできてないのをどうしたら良いのか。ゼロ歳児をたくさん預かっている保育園でそのようなことができるのか。保育園全般でいえば、そういう手当ができないまま小学校へずるずる続いている。その欠陥が小学校でついていけないということで出てくるのではないか。

西田委員　家庭環境もなかなか余裕がない。

牛尾委員　今回の学習指導要領の改訂ポイントもそこだと言われた。そこをどうするか。その辺について、現場、例えば津和野、軽井沢等へ行って現場の声を聞く必要があるかもしれない。保育園等の現場にたまに行ってもトータルで見てないので分からない。

西田委員　私も率直に感じたのは、ゼロ歳児と、きちんとした認識を持って関われる人材。この前のアドバイザーは幼稚園や保育士へのアドバイザーだったので、もっと子どもと直接関われる人を増やすのが大事かと思った。

地域が関わることがいかに大事か。しにくいことが多いとは思うが、地域との関わりが大事かと。

総務文教委員会で視察に行ったりもしたが、小学校に行ったらコミュニティスクール的な、地域と学校が関わっていく事例が増えている。就学前の子どもと関わる組織や団体が現れたりして、人材が増えていくことが求められている。そういう支援が必要だと思う。

牛尾委員　恵庭市に行った時にゼロ歳児からの読み聞かせというのがあった。その子が大きくなって、7歳になったら次はその子がゼロ歳児に読み聞かせる。そういう習慣があると、人の話をよく聞くようになる。効果があるのに実践しているところが少ない。

西田委員　子どもは1回経験して吸収する。次は自分より小さい子へ教えることができる。そういう経験をすることで、自分の経験を教えることができるのは大変すばらしいことだと思う。そういうことを多くすることが大切である。

西川委員　就学前のゼロ歳から5歳までの段階で必要なことを、幼稚園でも保育園でも、家でも、どこにいても教育が受けられるような体制を目指す。平等に幼児教育を受けられる町になれば良い。

芦谷副委員長　育ってほしい10の姿を自分らに置き換えると、今の大人世代にこれが

あるのかと思う。我々は、社会は留まっていて子どもに頑張れという。地域ぐるみで成長が必要である。教育は完成形ではなく常に進化するもので、大人も子どもも一緒に成長することが必要である。聞く耳をもって幅広く人と交わって自分も成長するという環境を作っていけば良い。

世知辛い大人の世界で、場合によっては、人を蹴落としてでも進もうとする風潮がある中で、10の姿を教えるのは難しい。大人も原点に返って成長することが必要である。

西村委員長　常日頃から思っているのは、私は市役所にどれだけ、教育、保育を語れる人材がいるのか非常に強く思っている。それは別に職員の能力が低いというわけではなく、人材育成の考え方が、僕らにも見えてこない。というところに大きな弱点があるのではないかと思う。行政の分野の課題としては、常日頃から思っている最大の点である。

この間、保育園の園長と話した時には、市の指導力は、日常的事務処理の点で、市はもう少し具体的に、例えばこの様式はこれくらいのものは最低限でも様式の中に入れてほしいというか、具体的な指導性を持ってほしいと言われていた。そういう不満も届いていないのかと少し驚いた。１から10までそうなのか、そうでないのかは分からないが、たまたま園長はそのように言っていたので市への不満があるのかと思った。

言われるように、保育所から見ればうちは委託を受けてやっているのだと。そうすると、もっと市がイニシアチブを持って最低限、示すべきであり、基本的な事務処理ひとつとっても、これだけは情報としてないとまずい、といった示し方ができてない部分があるのだと、話の中で感じた。市の側の課題としてそういうことがあるのかと思う。実態はよくわからない。

牛尾委員　幼稚園そのものを行政から離してしまった。中身の教育について、もしかしたら市役所はタッチしていないのでは。民間は、1園でも残してもらったら困るから全部民間に渡してほしいという流れから、行政側は一定レベル以上タッチしない、特に中身については。そういう現場の声があるなら聞きたい。幼稚園は直営だから絡むけど、保育園は民間だから絡まない。

西村委員長　私は逆に、必要な支援については保育士に聞いてみたいことはいっぱいある。私らが考えても現場にマッチしたものがポンポン出てくるわけがない。現場の保育士に聞いた方がよほど早い。

市や保育所に求めることは、どういう実態があるからそのように思うのか、その関わりを僕は知りたい。

芦谷副委員長　早い話、親も保育園、幼稚園の先生含め、いつも前を向いて開いていって、突き合せしないと、今までのようなことを続けても良くはならない。前に進化するような環境や条件を作ってあげて、スーパーティーチャーはいらないが、熱意を持っている先生がいれば変わっていく。我々も行政側も、阻害しない形で環境だけは作ってあげればいい。

三浦委員　重複しないところで、教育全体の魅力化が必要だと思っている。その着手部分としては、今県からの補助金ももらって、高校の魅力化に浜田市も手を挙げているが、正直全然物足りない。市が教育の魅力化をどこまでやるのか疑問がある。設置者の壁を越えられないのだと思っていて、

高校は県立高校だから県がやるべきだというところから脱しない。そうなった時に幼稚園に関しては、まだ浜田市立であり、幼児教育を含めての魅力化については必ず市がやっていかないといけない。間違いなく、高校と違って市が触らなければいけなくなる。しかし、幼児教育イコール幼稚園ではなく、保育園でもあり、地域でもありということになっていくと浜田市がそこをしっかり触っていくことも必要である。そうすると高校魅力化コーディネーターは1人しか置かない。しかし幼稚園の魅力化は一人もいない。しかし置いている町もある。しかも厚生労働省の国の仕組みを使って資金の援助もある中でそうしたところからは浜田市が教育の魅力化全体を着手していく入り口としてはこういう人材を材配置していくというのは、きっかけとして良いのではないかと思った。あとは皆と同じ。

西田委員　やはり、人材という観点は重要。子どもと直接関わる人材、地域の人材、行政の考えられる人材、そういった中で、私もそうだが、単純に今の自分の仕事をこなすだけの人と、またやるべきこと以外のプラスアルファでどれだけ自分外に目を向けて考えを持って動けるか。そういう人の存在はとても大きいと感じた。皆の意見を発表してもらった。

三浦委員　今必要だと思われる支援策の中で、コーディネーターの配置が必要ではないか、しかし、その効果を実際に配置している自治体に聞いてみたいといった永見委員の意見。

牛尾委員が言われていた小学校と幼稚園の共通認識やすり合わせが必要なのではないか、また具体的にどういう仕組みがあったらいいのかについて、津和野や軽井沢の風越学園の話が出ていたが、具体的に実践されているところに学びたいというリクエスト。

芦谷委員がおっしゃった、10の姿をどうやって現場に落とし込むか、もう少し見てみたいとか。現場の先生が何に困っているかもう少し知りたいといった率直な意見もあった。こういったところを個別にインプットしていく必要があるのかなと、これらのメモから分かってきた。

西田委員　内容のある意見が出て、少しずつ前に進んでいる気がする。もう少しすればだんだん見えてくる。委員会としてどういう行動をすればいいか、何となく先が見えてきた。次のステップに向けて、委員会として具体的に進めたらいいと思う。

三浦委員　まだ概論だと思う。話が多岐にわたる。抽出というか、関心事が出ているところを、正副委員長とで、これを深堀りしてみようとか。どこも深堀りしたいというリクエストなのだろうが。そのように進めたらいいのかなと、今日の皆の話を聞いて思った。

今日出してもらったご意見は、記録としてまとめて、前回の勉強会のまとめとしてまた共有させていただく。

どういうところを深堀りするか、あとは順番だと思うので。個人的に思ったのは、西川委員も言われていた幼稚園だけでなく、保育園も町の公民館や社会教育施設も一緒になり、幼児教育を町全体で実践するのが大事なのではないかという部分を浜田ならそれが「共育」なのかもしれないがそういう事例。

西村委員長　実践例があるかどうか。

三浦委員　そのあたり、空論でなく具体例を知りながらどういう形が良いかを比較検討したりするのが良いかなと思った。

牛尾委員　美川幼稚園は子どもらと一緒に田植えをして、収穫して餅をついて卒園式で配るという体験学習をして親に喜ばれている。芋堀をしたり。町中の幼稚園はなかなかできない。

三浦委員　そういう地域活動というのは、その体験活動のねらい等は地域と幼稚園と共有した上で実践されているのか。地域へ芋掘をお願いしているだけなのか、目的やねらいを共有してやっているのかで、地域の方との関わり方も違うような気がする。

牛尾委員　10年くらい前から連合自治会あたりで、幼稚園を盛り上げようというので側面協力として体験活動をやっている。幼稚園の先生方も地域の熱意をどう受け止めるか、いろいろ議論した中で続いているのだと思う。

永見委員　今福では幼稚園ではなく小学生をターゲットにしている。

三浦委員　旭はどうか。

上野委員　子ども部会があって、まちづくりにおいて子どもを地域と関わらせようという取組がある。

芦谷副委員長　保育園や幼稚園、公民館の周辺の話。本当は条例でも作って、とにかく市はいろんなことをここまで応援する、地域がメニューを提供してあげる。地域が、大人が、社会が参加する感じになっていけば。浜田市全体でそれを進める。

上野委員　福祉施設へ行かせたり、そうすると高齢者がすごく喜ぶ。

三浦委員　三隅はどうか。

西田委員　公民館はやっている。

三浦委員　どちら側からリクエストしているか。幼稚園側か公民館側なのか。

西田委員　公民館の関わりが強い。学校行事にも公民館やまちづくり推進協議会が関わる。何かがあると子どもが参加するというのが多い。

牛尾委員　白砂は公民館主体で子どもが弁当を作って高齢者に配布する取組をしている。

西田委員　熱心な人がいる地域は熱心。

西村委員長　だからやはりコーディネーターみたいな方がいると回っていく。

牛尾委員　そういう人材を育てるシステムがあるわけでなく、たまたまそういう熱心な人材がいたら進む。もっと進化させないと、そういう人材を配置するためにどういう仕掛けをすれば良いか。そこに行きつくのだろう。

三浦委員　地域から幼稚園に働きかけがあるところは、まちづくり活動が積極的で、声をかける。例えばまちづくり委員会が立ち上がっていなかったり、公民館活動は旧浜田市と旧郡部は違うので、そうすると旧浜田市内は公民館や地域から幼稚園に声をかけることが少ないという仮説を立てるならば、そこの市内の幼稚園に通っている子は地域との接点が少ないという仮説を立てるなら、仮に幼稚園あるいは保育園からしっかり声をかけているならば、そうではないと思うが。

属人的ではなく、園として意識しながらコーディネーター的な先生がいたり、地域側にそういう人がいると、地域的な活動は担保されるのかなと。そういう話を聞いて分析することが必要かと思う。

西村委員長　やはり各分野に核になる人がないと、一定の大きさで回っていかない

	気がする。
牛尾委員	特定の地域にそういう人がいる、という認識までで終わっている。それをシステム化する方向へもっていかなかったから発展がない。
三浦委員	人を育てる仕組み、配置する仕組みができているところがあれば見てみたい、ということか。
	（　「はい」という声あり　）
西村委員長	よい議論ができた。

2. その他

西村委員長	次の日程を決めた方がよい。
下間次長	次は、今回の担当者がまとめたものを提示していただける。
西村委員長	テーマを決めたいのだが決まるか。
三浦委員	テーマを決めて次回につないだ方がよいのでは。
西村委員長	今日はおこう。
永見委員	次回は。
西村委員長	日程だけ決めよう。
	（　以下、日程調整　）
	7月15日午前10時から。この日にテーマを決める。今日のまとめを持ってきてもらう。よろしいか。
	（　「はい」という声あり　）
	では、以上で総務文教委員会を終了する。

〔　15 時　40 分　閉議　〕

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長　西村　健　㊞